

2011年12月

東北大学環境報告書 2011 に対する評価

東北大学環境報告書評価委員会

本報告書は環境に関わる東北大学の活動の内容を網羅し、その現状を学内外に発信する媒体として優れたものである。2010年版に対する本委員会の評価意見が2011年版の編集の過程で十分に反映され、読みやすさのための工夫が随所になされた。特に毎年改訂が加えられてきた表 I-3 は、2011年版でもさらに改訂が加えられた結果、よりわかりやすく充実したものとなった。また本学から発信された東日本大震災に関わる環境関連の話題が掲載されている点も評価できる。本報告書はデータが適正に開示され評価分析がなされており、事業所の報告義務を十分に果たしている。環境関連の教育・研究の活動とその成果をさらに主張されれば、本報告書はさらに充実したものとなると期待される。震災後のさまざまな困難にも関わらず、限られた時間でこの優れた報告書をまとめられた環境報告書作成専門部会のご努力に敬意を表する。今後、本報告書がさらに充実し、東北大学の環境マネジメントに活用されることを期待し、本評価委員会で出された主な意見を以下に列挙するので、参考にしていただければ幸いである。

- 1) 全体を通して、カタカナ語（環境パフォーマンス、環境マネジメント、環境マインド等）の使用が多く、一般の読者にそれらの意味が無理なく伝わるかが懸念される。こうしたカタカナ語の使用は極力控えることが望ましい。また「環境活動」という言葉の代わりに、「環境保全活動」など具体的内容がわかりやすい言葉を用いる方がよい。
- 2) 本学の環境関連の研究がどのように社会に貢献し、どのように評価されているのかについて記述いただきたい。また環境マインドを備えた人材の育成については、どのような思想や目的の下でどのようなプログラムが動いているのか、全体像がつかめるまとめ方を期待したい。なお、環境関連の教育については、環境維持に関わる教職員向けの各種の講習会が開催されており、それらを集計して記載してもよい。また各学部・学科で開設されている演習・実習等も含めると、環境に関わる教育科目はさらに多数あると思われる。
- 3) p.8 図 I-1 の社会的要求について具体的内容の記載がないが、本報告書は学外に向けたものでもあるので、大学として社会的要求をどのように捉えているのかを明記することが望まれる。
- 4) p.11 表 I-3 の達成度については3段階評価の根拠を記載していただくことが望まれる。また前年度との比較や次年度の課題等の記載があればさらに好ましい。
- 5) p.19 CO₂ 排出量が「原単位」と「総量」の両方で記述されているが、「原単位」の方は一般の読者にはあまり馴染みがないと思われる。原単位の説明は p.3 にあるが、p.19 にもその説明を盛り込み、表 II-2 や図 II-8 などに記載されている「床面積 1m² 当たり排出量」との関連がただちにわかるようにしていただくことが望ましい。また今後は CO₂ 排出量を総量の視点で考察することも重要であると考えられる。